

## 町政を問う！



小田 貞利 議員

### 防犯カメラの設置は急務

**問** 町内の漁港等において、船外機やバッテリー、漁具の盗難事件が多発している。

また、独居老人の安否や外国人客の増加が見込まれる中、事件事故の不安は高まってくる。

全町に防犯カメラの設置が必要であると感じているが、何か対応策は考えているのか。

**答** 防犯カメラの設置は、被害の未然防止や犯罪発生時の確かな対応に有効であるとされており、地域住民等の安心感を高め、犯罪抑止に大きな効果があるなど、非常に有効な設備であるとして認識しているが、現状では全ての港に設置することは難しい。

防犯カメラの設置は、様々な抑止力につながる反面、監視さ

れていると感じたり、プライバシー保護の問題もあるので、関係機関との調整を踏まえ慎重に進めていく必要がある、具体的な内容についても、どのような補助事業が防犯対策として、より効果的かつ効果的であるかを検討するとともに、財政負担も考慮しながら行っていくことが重要である。

今後は、防犯カメラの設置に対する支援策等を含め、先進地や他市町の状況も参考にしながら研究してまいりたい。

### 電力の自由化で

### 経費削減はできたか

**問** 電力の完全自由化となり2年が過ぎた。多くの企業や自治体でも安い電力会社へ契約を変更し、経費の削減を行っている。本町でも多額な電気料金を支払っているが、現状と今後の計画を問う。

**答** 現在まで、中国電力を含む各電力供給会社から提案を受けてきたが、契約変更には至っていない。経費削減のためにも、

電気料金の削減を検討する必要があると考えている。

施設の電気使用状況等に応じた契約形態に移行する方向で、先ずは病院事業局において、今年5月に見積入札や料金プランの見直し等により契約変更を行った。県内の新電力導入状況も勘案し、電気料金の削減に向け、早い段階での導入に取り組みたいと考えている。

### バス停待合所の

### 設置を望む

**問** 毎年この時期になると、児童・生徒が雨の中で傘をさし、バスを待っている姿を目にする。学校の統合が進む中、通学時の負担は極力抑えなくてはならない。

学校前のバス停や集落のメインとなるバス停には、風雨をしのげる待合所の設置を望む。

**答** バス停待合所の設置は、「バス待合所設置事業補助金交付要綱」にもとづき、待合所の建設に要する経費または補助金額の上限32万円のうち、いずれかの

少ない額で地域の要望に答えたい。

児童・生徒が帰宅時に利用するスクールバスが、住民の方との混乗等の理由により、校内に乗り入れることができず、最寄りのバス停を利用している場合は、当該バス停の待合所設置について、今後検討してまいりたい。



▶ 和田地区東泊バス停待合所